

## 有機ELと深山和紙コラボ

### 和の灯り「YUKIANDON」開発

有機EL照明を置賜から世界に普及させたいと、米沢市内の企業で組織する有機EL照明実用化研究会(和田宏代表)は26日夕、門東町一丁目吉亭で記者会見

し、新たな有機EL照明製品を発表した。開発したのは白鷹町伝統の深山和紙を組み合わせた行灯型の照明「YUKIANDON(ゆきあんどん)」。量産化に向けた第一歩

で、来月上旬にはイタリアで開かれているミラノ万博に出展する予定だという。

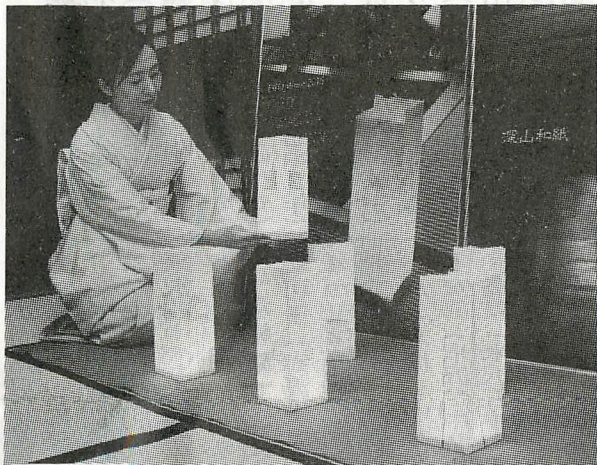
研究会は、有機ELの事業化、商品化を目的に平成25年3月に発足。同年には第1号商品として「Man Nen灯」を公共施設に納品した。

東北パイオニアの有機ELパネル(72・4ミ四方)を使用。リチウムイオン電池を内蔵し、連続2・5時間点灯が可能。USBケーブルで電源を取ること

で覆い、2段階の明るさに加え、ローソクのような「ゆらぎ」点灯もし、心を和ませる柔らかな明かりを放つ。

記者会見では、和田会長が特徴を説明しながら「米沢の力を世界に向けて発信したい」と意気込みを語った。会場を優しく照らした試作品には彼岸花や秋の山並みをデザインし季節感を演出。将来的には顧客の要望に応じたデザインを施したいという。

11月13日から限定550台で販売開始する予定。価格は、1台1万9800円(税別)、シェードのみは2900円(税別)。問・タカハタ電子(36)0013まで。



柔らかな灯りを放つ YUKIANDON